



地域の防災力向上、避難所ペット・備蓄について

田中和美（公明党）

この度の台風による記録的な豪雨の経験から、行政による公助のほか自助・共助の重要性が浮き彫りになった。

問 自主防災組織等における「地区防災計画」策定の進捗状況は。

答 現時点で、計画作成の報告はなく、進展していない。地域住民が学び、話し合いながら避難のルールを具体的に作るものであり、いざという時の早期避難の決断につながるため、国が定めた「地区防災ガイドライン」等を活用し、防災訓練や出前講座などで啓発や作成支援を促進していきたい。

問 この計画に防災士が中心となって策定している先進市がある。本市の防災士は50人と少ないが、防災士取得への助成を検討してもらえないか。

答 地域力向上に寄与する防災士の増加が有用であることは認識しているが、自主防災組織の資機材に対する補助を行っているため、現在のところ予定はない。

問 防災リーダーは今後さらに重要となる。前向きな助成の検討を。

答 本市では講座を実施して地域リーダーを養成しているが、補助メニューの見直しが可能かどうか検討していく。

問 ペット避難の見解は。

答 ペット避難は従前から可能であったが職員の共通認識が図られておらず、迷惑をかけた。今後ペット避難に対する周知のチラシや防災訓練での同行避難も検討していく。

問 液体ミルクの備蓄は。

答 メリットが非常に多いことは認識している。本格導入の前に、試行的に少量から検討していく。

その他の主な質問

○感染症予防について



忍川の氾濫と広域避難について

高澤克芳（みらい）

問 台風19号の大雨により市内を流れる忍川が溢水したが、この原因をどのように考えるか、また、今後の対策をどうすべきか、市長の考えは。

答 忍川は市街地を通り元荒川に合流する本市の雨水排水において、最も重要な河川である。これまで台風の際は、武蔵水路を利用して内水排除により忍川の水位上昇を抑えて氾濫を防いできた。今回も10月12日の8時10分に利根川から武蔵水路への取水を停止し、内水排除を行ったが、16時15分に荒川が氾濫危険水位を超えたため、内水排除を中止することになった。その後も豪雨が続いたため、忍川は溢水してしまった。この原因は、忍川下流部が未整備のため、流下能力が低いこと、総雨量255ミリの豪雨であったこと、武蔵水路の

内水排除の中止などが要因と認識している。そのため今後の対策として、早急に忍川の拡幅や調節池の整備を行うよう河川管理者である埼玉県へ要望書を提出したところである。また、今後の対応については国・県などの関係機関と連携し、可能な限り対応を講じていく。

問 荒川、利根川、福川ともに危険水位を超えた状態であったが、他の市町村に避難する広域避難は考えなかったのか。

答 広域避難は市内における避難では市民の安全確保が困難と判断した場合に実施するが、今回は避難所の状況や気象状況を総合的に勘案し、実施しなかった。近年、気候変動で災害が激甚化の傾向にあることから今後は広域避難体制も含め、より厳しい状況を想定した体制づくりに努める。



市民の生命・財産を守る 防災・減災対策について

加藤誠一（黎明21）

問 本市の台風19号の被害状況は。

答 人的被害はなかったものの、浸水は床上54棟、床下202棟、店舗・工場等23棟及び車両186台。停電は約400件、農業被害は水稲と大豆で9件、ビニールハウスの破損等が発生した。

問 避難所は最終的に39施設を開設したが、対応は十分であったか。

答 本格的な避難所開設は今回が初めてのため、各避難所と災害対策本部との連携が不十分だったことによるペット対応や備蓄品配布に統一性を欠いた点が課題であった。

問 避難所の備蓄品は足りていたか。

答 避難所合計で、アルファ米2088食、保存水2181本、毛布1805枚を活用したが、毛布が不足した。

問 アルミシートなども備蓄すべきではないか。

答 避難所運営及び備蓄品については今回の経験を活かし改善に努めたい。

問 浸水に備えて防災備蓄倉庫を小中学校の2階以上の空き教室に移すことや体育館の避難所機能の強化の面から、トイレ改修、スロープによる段差解消、電気、水道管の耐震化、通信回線の敷設等を急ぐべきと考えるが。

答 空き教室の活用及び体育館の機能強化については、今後の施設改修等の優先度を見極めながら検討したい。

問 防災行政無線が聞き取れなかった世帯もあったが、伝達手段として防災ラジオの導入も検討すべきと考えるが。

答 情報伝達には、費用対効果も踏まえ、防災ラジオの活用を含めて様々な方法を検討したい。